

記 入 日 2013 年 1 月 1 0 日

1. 概 要

実践団体名	岐阜県御嵩町立上之郷小学校		
連絡先	0 5 7 4 - 6 7 - 1 3 3 8		
プランタイトル	すすんでやりぬく上之郷の子プロジェクト		
プランの対象者※1	小学生 保護者・P T A 地域住民	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

過去の災害体験が少ない地域特性のもと、地域住民・保護者・関係機関を巻き込みながら児童に「自分の命は自分で守る力を育成する防災教育」に取り組む。自主防災会・保護者とさまざまな防災訓練を実施し、地域住民・保護者・児童の防災意識を高める。「月一回防災の日」を設定し、防災朝活動・命を守る学習を実施「防災教育の観点を位置づけた教科・道徳・学級活動の授業を実施」することで児童の防災意識を高め、生き抜く力を身に付けさせる。

【プランの概要】

1. 防災教育の観点を位置づけた教科等の指導計画作成および授業実践
災害伝承学習、教科学習・道徳・学級活動・総合的な学習の時間の実施と授業公開
2. 「月一回防災の日(ぼうさい かみのごう)」の取組
停電想定的生活 防災朝活動を実施 命を守る学習を実施
3. 地域住民・保護者参加の防災訓練・防災研修の開設
防災教育講演会 町防災訓練参加 近隣地区との防災訓練 災害図上訓練 減災活動

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 地震・土砂災害を中心に災害伝承学習を含む「命を守る学習」・「命を守る訓練」を行うことで災害の理解、身の守り方を知ることができ、自ら判断し、行動することができる。
- 地域住民と連携した町防災訓練、多くの関係機関の協力で実現した近隣地区との防災訓練に全児童・教職員が参加して多様な訓練を体験することで地域・関係機関との関係作りが進み、地域を守るために活動している人や活動内容を知ることができる。
- 校内減災対策・親子登下校訓練・災害図上訓練で作成した My ハザードマップを保護者に配布することで災害への備えの必要性を伝えられ、保護者の安全意識の高揚をはかることができる。

2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	<ul style="list-style-type: none"> 年間活動計画検討 防災朝活動内容検討 災害図上訓練内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 6・7 月防災教育講演会講師依頼 自助パックを PTA 総会で会長提案 	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る訓練①(地震想定避難訓練) 毎月 1 回「防災の日」(ぼうさいかみのごう) 朝の活動 (実践 p 10)
5 月	<ul style="list-style-type: none"> 緊急引取訓練打合。 10 月近隣自主防災会合同訓練内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 消防署に講師依頼 保育園・中学校と打合 災害図上訓練打合 自治会長に 9 月町防災訓練・10 月合同訓練への参加依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法講習(4, 5, 6 年) 職員研修「東日本大震災で活動した人から学ぶ」 PTA 環境整備作業 家庭教育学級「心肺蘇生法講習」
6 月	<ul style="list-style-type: none"> 7 月防災教育講演会・実践発表検討 9 月町防災訓練への参加の仕方検討 7 月公開授業案検討 	<ul style="list-style-type: none"> 県土木事務所に講師依頼 着衣泳講師依頼 町・地区自主防災会と打合 	<ul style="list-style-type: none"> 砂防講座(5 年) 教職員初期避難所運営訓練 保小中合同緊急引取訓練 小学校区防災教育推進委員会開催 (実践 p 1) 防災教育講演会(保護者・児童) 親子登下校・災害図上訓練 (実践 p 2)
7 月	<ul style="list-style-type: none"> 7 月実践発表内容検討 防災朝活動内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 7 月実践発表リハール 10 月拡大交流会指導案検討及び内容確認 	<ul style="list-style-type: none"> 自助パック(非常食等)用意 (実践 p 3) 地域に開かれた防災教育授業公開 着衣泳 防災教育講演会・実践発表 (実践 p 4)
8 月	<ul style="list-style-type: none"> 防災朝活動内容検討 災害伝承学習内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と町防災訓練必要物資の用意 地元被災体験者・町学芸員に講師依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校区防災教育推進委員会開催 親子飛散防止フィルム貼付体験
9 月	<ul style="list-style-type: none"> 11 月実践発表検討 近隣自主防災会合同訓練時の防災刈モテリッパ検討 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣自主防災会合同訓練時の防災ヘリ訓練に必要な対応を関係機関と打合 	<ul style="list-style-type: none"> 町防災訓練参加 (実践 p 5) 災害伝承学習(第二室戸台風・伊勢湾台風体験談(3 年)) (実践 p 6)
10 月	<ul style="list-style-type: none"> レスキューストックヤード講師依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 役場・消防署と打合、学校周辺家庭への依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣自主防災会との合同防災訓練 (実践 p 7)
11 月	<ul style="list-style-type: none"> 12 月公開授業案検討 11 月発表原稿検討 	<ul style="list-style-type: none"> 実践発表リハール 拡大交流会展示物用意 	<ul style="list-style-type: none"> 御嵩町拡大交流会(授業公開・実践発表) (実践 p 8) 24, 25 年度実践した「命を守る訓練」「授業指導案」等をホームページに公開(加工可能)
12 月	<ul style="list-style-type: none"> 防災朝活動内容検討 県防災フォーラム内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 県防災フォーラム展示物用意 	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育研修会(教職員) 地域に開かれた防災教育授業(5 年社会)公開 (実践 p 9)
1 月	<ul style="list-style-type: none"> 防災朝活動内容検討 平成 26 年度学校安全計画検討 2 月命を守る訓練内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 県防災フォーラム分科会発表リハール 	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜県防災フォーラム分科会発表 小学校区防災教育推進委員会開催
2 月	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度学校安全計画検討 防災朝活動内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育研究推進構想検討 	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る訓練(休み時間・地震想定) 25 年度実践をファイル化し、まとめる
3 月	<ul style="list-style-type: none"> 防災朝活動内容検討 		<ul style="list-style-type: none"> 小学校区防災教育推進委員会開催

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	上之郷小学校区防災教育推進委員会
実施月日（曜日）	6月5日（水）8月26日（月）1月14日（火）3月6日（木）
実施場所	上之郷小学校 会議室
担当者または講師	上之郷公民館長・自治会長会長・消防団第一分団長・町総務課(防災担当部局)・町教育委員会係長・中学校防災主任・上之郷保育園長・PTA 会長・校長・教頭・教務主任・防災主任（研推長）
所要時間または「コマ数×単位時間」	4回×2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	「17」その他 地域の防災教育推進委員会の設置
活動目的※5	「3」災害に強い地域を作る
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の防災教育推進への評価と助言 ・学校・家庭・地域の連携のあり方検討及び連携状況評価と改善策検討 ・学校・家庭・地域・行政の情報共有及び関係機関との接続
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事務局：上之郷小学校 委員長：公民館長 副委員長：自治会長会長
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信などの啓発用資料 ・取組内容をプレゼンで説明
参加人数	13人
経費の総額・内訳概要	¥41,657－（啓発用学校通信 カラートナー代 年間16回 1回A3両面200部）
成果と課題	【成果】地域の防災意識の向上につながった。 地域の防災に関わる連携した組織を作る事ができた。 【課題】自立した組織になるような更なる仕組みが必要である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	親子登下校・親子防災教育講演会・親子災害図上訓練
実施月日（曜日）	平成 25 年 6 月 15 日（土）
実施場所	支度から学校までの通学路、小学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：大学教授 氏 名：高木朗義 所属・役職等：岐阜大学工学部社会基盤工学科教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	2 時間 35 分（8：40～11：15）
プログラムのカテゴリ、形式※4	「2」講習会・学習会・ワークショップ「9」校外学習・移動教室
活動目的※5	「2」防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	通学路や自宅付近で起きそうな気象災害や地震による危険を知り、洪水や土砂災害や地震から命を守るために、危険の予測とその対処方法を家族ら通学班の仲間と共に考える。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①児童と保護者が緊急箇所を点検しながら登校 ②講演「世界一受けたい減災教室 in 上之郷小」 ③D I G 災害図上訓練 ④通学班一斉下校 危険箇所点検
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ねらい説明用プレゼン 臨時通学班 19 の D I G グループ編成 自宅から集合場所までの地図とチェックリスト 感想記入用紙
参加人数	160 人
経費の総額・内訳概要	¥ 44, 108 -（講師料 ¥ 26, 000 - 交通費 ¥ 3, 108 - 全児童分クリアファイル ¥ 15, 000 -）
成果と課題	【成果・命を守るための用具が日常生活のもので簡単に作れる事を知り、親子ともすぐに役立てられることに喜び、自助パックの内容により影響を与えた。 ・自宅周辺の危険箇所を再確認できた。 【課題】季節を変えて危険箇所を見つめ直す必要がある。
成果物	上之郷小学校ホームページに授業指導案を公開。ダウンロード（加工して使用できる）できるようにした。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	学校での「自助パック」の用意
実施月日（曜日）	3月4日（月）～6月26日（水）
実施場所	学校と家庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：平成24, 25年度 P T A役員 氏 名：山田満、額額直樹ほか10名 所属・役職等：P T A役員
所要時間または「コマ数×単位時間」	・3月4日学級懇談会 ・児童間の内容の交流20分
プログラムのカテゴリ、形式※4	「10」家庭学習「13」体験学習「17」その他
活動目的※5	「9」災害対応能力の育成
達成目標	児童一人一人が「自助パック（帰宅困難時必要物品）」を用意する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	P T A役員が懇談会で呼びかけ→観段階で交流→P T A総会で具体案提案→共同購入物を斡旋→家庭で親子が話しあい準備→学校で児童同士交流
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	非常食や飲料水の共同購入用サンプル
参加人数	全64家庭 全児童90名 職員14名
経費の総額・内訳概要	¥33,660-（自助パック収納箱¥21,360- 学校用非常食12,300-）
成果と課題	【成果】・親子で準備することで、保護者の防災意識を高める事ができた。 ・一昼夜過ごせる非常食などを用意できた。 【課題】家庭用「自助パック」の準備への接続
成果物	上之郷小学校ホームページに公開。ダウンロード（加工して使用できる）できるようにした。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4】※3

タイトル	防災教育講演会・実践発表
実施月日（曜日）	平成 25 年 7 月 30 日（火）
実施場所	御嵩町中公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：前戸倉小学校校長 氏 名：麻生川 敦 所属・役職等：多賀城市教育委員会学校教育課長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	2 時間 20 分（9：30～11：50）
プログラムの カテゴリ、形式※4	「3」講演会・シンポジウム
活動目的※5	「3」災害に強い地域をつくる
達成目標	県内学校関係者や御嵩町内の地域住民、保護者への防災啓発
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・上之郷小学校の実践発表 ・講演会
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンによるプレゼンテーション
参加人数	150 名
経費の総額・内訳概要	¥54,410－（講師交通費¥41,660－ 宿泊費¥7,140－パソコンケーブル¥5,610－）
成果と課題	<p>【成果】・岐阜県下小中学校の多くの管理職が参加し、防災について学ぶ機会を提供することができた。</p> <p>・本校の1年半の実践を伝えることで、自校の取組を振り返る方が多く、防災教育活動を広めることに寄与できた。</p>
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5】※3

タイトル	町防災訓練への児童・職員・自主防災会の参加
実施月日（曜日）	平成 25 年 9 月 1 日（日）
実施場所	上之郷小学校 運動場と体育館と校舎
担当者または講師	担当者・講師等の区分：上之郷小学校職員、御嵩町役場職員、上之郷小学校区防災教育推進委員会
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前中 3 時間半「4 コマ×45 分」
プログラムのカテゴリ、形式※4	「16」避難・防災訓練
活動目的※5	「7」技術を身に付ける
達成目標	自主防災会の意識向上と防災知識技能の向上
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①パーティション設置体験 ②水消火器、ポンプ車放水、煙道体験 ③ハイゼックス体験
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パーティション、水消火器、ポンプ車放水、煙道体験、ハイゼックス
参加人数	約 200 名
経費の総額・内訳概要	¥144,722-（パトロールベスト¥45,722- 発電機¥99,000-）
成果と課題	【成果】・地域の自主防災会との方々と触れ合うことで、結束を固めることができた。 ・防災への対応技術を高める事ができた。 【課題】学校主導の所がまだ強い。推進委員会中心の活動にしていく。
成果物	上之郷小学校ホームページに訓練指導案を公開。ダウンロード（加工して使用できる）できるようにした。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6】※3

タイトル	災害伝承学習
実施月日（曜日）	平成 25 年 9 月 27 日（金）
実施場所	上之郷小学校 3年生教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：上之郷小学校 3年生担任 氏 名：三森 賢一 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	1 コマ×45 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	「5」教科学習
活動目的※5	「6」防災に関する知識を深める
達成目標	ふるさとで過去に起こった災害について調べることに興味をもち、郷土の博物館や地域のお年寄りの話を聞く活動を通して、過去にはこの地域に大きな被害をもたらされたこと、人々が互いに助け合いながらそれらの困難を乗り越えて暮らしてきたことを知る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1、わたしたちの町についての学習をふりかえる。2、2年前の災害は、初めてだったのか？予想したことを交流する。3、壊れた家の写真を見て、中山道みたけ館の大脇さんのお話を聞く。4、過去には他にもこのような災害があったのか、年表から知る。5、このような災害があったとき、私たちの町の人々はどのようにしたのか、当時の消防団員、山田さんのお話を聞く。6、災害で救出された方の手記を読む。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	中山道みたけ館職員、当時の消防団員 壊れた家の写真、年表、手記
参加人数	20人
経費の総額・内訳概要	¥6,000-（謝金2人分）
成果と課題	【成果】校区にいる被災体験者を見つけ出すことができ、本校における災害伝承学習の形を作ることができた。 【課題】話を聞くだけでなく、社会科のねらいも踏まえた授業として練り直す必要がある。
成果物	上之郷小学校ホームページに授業指導案を公開。ダウンロード（加工して使用できる）できるようにした。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	近隣自主防災会との合同防災訓練
実施月日（曜日）	平成25年10月27日（日）
実施場所	御嵩町立上之郷小学校及び校区
担当者または講師	担当者・講師等の区分：岐阜県防災航空隊、本校職員 氏名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	防災ヘリによる救助救出訓練：15分 防災オリエンテーリング：1コマ×60分
プログラムのカテゴリ、形式※4	「9」校外学習・移動教室 「13」体験学習
活動目的※5	<ul style="list-style-type: none"> ・児童及び教職員が近隣住民と交流することで地域への関心や愛着を高め、地域コミュニティを強化する。 ・防災ヘリの存在や活動内容を知る中で防災活動の「公助」についての理解を深める。
達成目標	児童と自主防災会の方と共同で近隣地域を探検して、防災に関する様々な施設や設備を発見することを通して、災害への備えや身近な危険を考え、防災意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼうさいかみのごう 朝の活動「公助の理解」 ・防災ヘリによる救助救出訓練見学（上之郷小学校屋上における救助救出訓練を見学） ・防災オリエンテーリング（近隣3地区の自主防災会の方々30名と児童が合同で校区にある防火設備を探検する）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災ヘリの申請：「道路使用許可」「土地承諾書」「消防署の職員派遣」「消防署タンク車」「消防団の職員派遣」「消防団ポンプ車」「学校周辺家庭への防災ヘリ飛来予告」 防災オリエンテーリング：校区内防火設備地図作成、防災クイズ作成 近隣自主防災会への参加依頼：3，4，8月に自主防災会長に依頼。 8月に当日の内容打合せ
参加人数	130名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・防災ヘリの意味を子どもたちが理解できた。 ・校区内にある防火設備・いたずらなどしてはいけないことを理解できた。自主防災会の方と共に行動することで関係作りができた。 【課題】 自主防災会の方に発災時の対応を身に付けてもらう必要がある。より実際的にするため、活動内容を工夫し継続する必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	御嵩町学力向上推進事業小中拡大交流会
実施月日（曜日）	平成 25 年 11 月 22 日（金）
実施場所	岐阜県御嵩町立上之郷小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：岐阜県教育委員会 氏 名：広瀬 満 所属・役職等：可茂教育事務所 課長補佐
所要時間または「コマ数×単位時間」	実践発表 1 時間 授業 7 コマ× 4 5 分
プログラムのカテゴリ、形式※4	「5」 教科学習、「6」 学級活動、「12」 研究、「17」 道徳
活動目的※5	「8」 防災意識を高める
達成目標	・現在の教科学習・学級活動・道徳の授業で「防災教育の意識」を教師がもつことで、防災教育の指導が可能であることに気付かせる。 ・命を守る訓練のノウハウを県下教職員が知ることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・社会・理科・保健体育・学級活動・道徳の授業を 7 学級公開 ・上之郷小学校防災教育実践発表
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・授業で使用する教材 ・実践発表用のパソコン、プロジェクター ・2年間で装備した防災備品 ダンボール製パーティション、自家発電機、防災カルタ、防災ダック、避難所運営用ビブス、自助パック
参加人数	170名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ○現在の教科学習・学級活動・道徳の授業で「防災教育の意識」を教師がもてば防災教育の指導が可能であることに気づいてもらえた。 ○地域・家庭・関係機関との連携の仕方を理解してもらえた。 【課題】 ●拡大交流会の案内を発信したが、関心を持っている人が参加した。意識が高くない人への働きかけが必要であった。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 9】※3

タイトル	地域に開かれた防災教育授業
実施月日（曜日）	平成 25 年 12 月 12 日（木）
実施場所	上之郷小学校 5 年生教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：上之郷小学校職員 5 年生担任 氏 名：小栗雅代 所属・役職等：教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	45 分(1 コマ×45 分)（13:55～14:40）
プログラムの カテゴリ、形式※4	「5」教科学習
活動目的※5	「6」防災に関する知識を深める
達成目標	消防団の活動について調べたり、消防団の人の手紙を読んだりする活動を通して、消防団の人たちが命がけで災害から自分達の地域を守ろうとしていることに気付き、自分達にもできることを考えることができる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	1 上之郷地区で起きた災害や、地域で防災に関わる人を想起する。 2 消防団の活動について調べる。（個人追究） 3 調べて分かったことを話し合う。（全体追究） 4 消防団第一分団長さんの話を聞く。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ゲストティーチャー：本校地区消防団団長 手記：消防団団員 兼 保護者
参加人数	20 人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】・地域の消防団に焦点を当てた独自の単元指導計画を作成することができた。 ・子ども達が消防団への理解を深めることができた。 【課題】子どもの心に入り込む防災に関わる発問を吟味する。
成果物	上之郷小学校ホームページに授業指導案を公開。ダウンロード（加工して使用できる）できるようにした。

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 10】※3

タイトル	毎月1回「防災の日」(ぼうさいかみのごう)朝の活動
実施月日(曜日)	4月17日(水),5月24日(金),6月26日(水),7月12日(金),9月27日(金),10月27日(日),11月22日(金),12月6日(金)
実施場所	御嵩町立上之郷小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分:上之郷小学校教職員 氏名: 所属・役職等:
所要時間または「コマ数×単位時間」	毎月朝の時間「15分」
プログラムのカテゴリ、形式※4	「8」その他学校内での時間 「16」避難・防災訓練
活動目的※5	「6」防災に関する知識を深める
達成目標	自然災害を理解し、自分の身を守るスキルを身に付けられる。
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	4月「避難の仕方を知ろう(担任が指導)」 5月「一次避難を知ろう(緊急地震速報による一次避難訓練)」 6月「災害の前兆現象を知ろう(特別活動指導部による指導)」 7月「自助パックを確かめよう(担任が指導)」 9月「台風とその備え(特別活動指導部による指導)」 10月「防災ヘリについて知ろう(特別活動指導部による指導)」 11月「楽しみながら防災を学ぼう①(担任が指導)」 12月「楽しみながら防災を学ぼう②(担任が指導)」
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災カルタ、防災ダック、自助パック、パソコン、プロジェクター
参加人数	90名(全校児童)
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・毎月継続して実施したことにより、児童に自然災害の知識・公助の意味・一次避難の仕方などを身に付けさせることができた。 ・年間を通したカリキュラムとして整備し、他の学校でも使えるものに仕上げている。 【課題】 低・中・高学年ごとの学習内容・全校一斉の学習内容として改善する必要がある。
成果物	毎月の指導計画を上之郷小学校ホームページに公開

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>防災教育の実践にあたり、次の4つの困難があった。</p> <p>①「人的ネットワークがない」 ②「防災教育の指導内容がわからない」 ③「教育課程に防災教育活動を入れる余地がない」 ④「活動費がない」</p> <p>工夫した点は、 「①」→『自ら求める』 ・「御嵩町防災アカデミーに管理職が自ら参加し、防災教育を学習」 ・「研修の機会を見つけ、職員を派遣し、防災教育を学習」</p> <p>「②」→『先進的な活動を知る』 ・「ぼうさい甲子園表彰式を見学」 ・「防災教育チャレンジプラン応募」 ・「インターネットで検索」</p> <p>「③」→『スクラップ&ビルド』 ・「学校行事削減」 上小タイム発表会(学習発表会)をカット→総合で20~30時間生み出す) 地域掃除(学校行事)→3回を2回に削減 児童集会での学年発表取りやめ</p> <p>「④」→『各種教育助成金応募』 4種の教育助成金に応募し、26年1月までに55万円獲得。</p>
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「月1回防災の日朝活動」：指導内容を何にすればよいのか困った。 ・「自助パック」の準備：必要性を全保護者に理解してもらうこと。 ・「防災教育講演会」の準備：講師の選定、参加者確保。 ・「親子災害図上訓練」：通学路上の危険個所を親子で話し合いながら見つける手順、通学班ごとに使用する地図が異なり、用意するのが大変。 ・「自主防災会への依頼」：各種防災訓練への参加依頼を校長・教頭で自治会長会議で説明した。一軒ずつ自治会長宅を校長が訪問し、同意を取り付けた。そのため資料の用意と時間確保が難しかった。 ・「災害伝承学習」：被災体験者を探すこと ・「学力向上推進事業小中拡大交流会」：指導案に位置づけた「防災教育の観点」は適切なのか助言を求めたかったが、できる人がいなかった。 ・「防災ヘリコプターの申請」：提出文書・申請書・近隣への説明・当日の散水など多くの準備が必要とわかった。そのため、関係機関との打合せ回数が多く、時間の確保も難しかった。校長・教頭の負担が大きかった。 ・「意識調査」：28の調査項目を設定し、24年6月から半年ごとに4回実施した。調査項目の選定に困った。
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「月1回防災の日朝活動」：用意した10分間を超え、授業に食い込むため、内容の短縮に苦勞した。 ・「自助パック」：必要物品を保護者が主体的に考えさせるための手立て。 ・「防災教育講演会」：児童・保護者全員同席のため会場が落ち着かなくなった。 ・「親子災害図上訓練」：全校児童が参加したため、低学年には、内容の理解が難しかった。保護者が主体的に参加できるようにするために通学班を細分化し、少人数で取り組む体制にした。 ・「災害伝承学習」：被災体験者が判明したが、児童に語ることを拒まれ、話せる人を見つけるのに困った。 ・「防災ヘリコプターの申請」：安全メガネが不足し、近隣の小中学校に依頼し、確保した。救助者役が降りる場所の検討に時間がかかった。周辺道路の通行を止めるなど他機関への依頼や許可の取得に苦勞した。 ・毎月「命を守る訓練」を位置づけたため、初めての準備・運営が連続し、職員に負担がかかった。 ・講師料、職員研修のための旅費等に費用がかかり、資金確保に苦勞した。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	上之郷中学校 上之郷保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・合同引取訓練 ・上之郷小学校区防災教育推進委員 ・町防災訓練 ・合同引取訓練 ・上之郷小学校区防災教育推進委員
保護者・ PTAの組織	上之郷小学校PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備作業 ・飛散防止フィルムはり付け体験企画 ・自助バック準備
地域組織	上之郷地区自治会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・町防災訓練 ・近隣自主防災会との合同訓練
国・地方公共団体・ 公共施設	可茂土木事務所 御嵩町役場 御嵩町教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防講座 ・上之郷小学校区防災教育推進委員 ・防止へり招聘 ・上之郷小学校区防災教育推進委員・
企業・ 産業関連の組合等	アメニティーワールドネットワーク 西山紙器(和歌山大学防災教育研究センター)	飛散防止フィルム貼り付け体験講師 避難所用段ボール間仕切り
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	レスキューストックヤード ぼうさい甲子園	講師 講師
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	東濃地震科学研究所	助言等

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な「命を守る学習」を進めたことが、意識調査項目の伸びとなって現れている。「災害時の避難場所を家族で決めている」「防災グッズを準備している」など2年間で30ポイント以上伸び、保護者・児童の意識が向上した。中でも「懐中電灯を持ち出せるようにしている」は、全児童の90%が「はい」と答えられるまでになり、意識の向上がみられた。 ○多様な「命を守る訓練」実施上のノウハウ・手順・人的資源などを教職員が把握できた。 ○従来の教科・道徳・学級活動の授業に「防災教育の観点」を位置づけることで児童が防災意識を高められるとわかった。岐阜県下に授業公開した所、参観者に安心感をもって受け入れられ、岐阜県下に防災教育の具体を広められた。また、学校ホームページにデータ加工可能にして指導案等を公開したことも好評を得ている。 ○地域・家庭・学校の関係作りが進み、顔の見える関係になってきた。そのため、学校・地域・家庭が一体感をもって子どもの安心・安全のために活動でき、学校が地域の拠点となった。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>上之郷地区の特徴は『大きな被災経験が少なく、地域の防災への意識が低い』ととらえ、取り組みを開始した。しかし、教職員だけでの指導では困難と感じ、関係機関・地域・家庭との連携を考え『上之郷小学校区防災教育推進委員会』を推進母体として設置した。「子どもは将来の上之郷を担う人材である」「子どもに自分の命は自分で守る力を育てる」ことを共通理解し、「地域・家庭・学校ができること、行えること」を考え合い、多様な活動を実践した。学校から依頼した推進委員を地域の方は快く引き受けてくださった。保護者は減災対策等の依頼に対して、全員が参加するなど協力的であった。学校がリードする面が強かったが、児童が近隣住民と共に活動することで地域への関心や愛着が高まり、地域コミュニティ強化につながったと感じている。また、関係機関・地域・家庭・学校の見える関係作りが進み、より地域に密着して活動できたと実感している。</p> <p>実践内容を「防災教育」「防災管理」「組織活動」に分け、『備える』『守る』『乗り越える』をキーワードに整理できた。他の学校の参考になるものを作ることができた。2年間の実践を通して児童に『自分の命は自分で守る力』が育っている。これらの取り組みが、本年度『学校安全部門 文部科学大臣賞』として認められた。地域、家庭も大変喜ばれ、より協力的になっている。課題は、教職員の異動後も防災教育を継続できる体制づくりである。そのために上之郷小学校区防災教育推進委員会がリーダーシップをとる場面を増やし、地域から学校に要望・意見が出せるよう働きかけをしていきたい。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○御嵩町防災訓練への参加、近隣自主防災会との合同防災訓練を継続。 ○「防災教育の観点」を位置づけた教科・道徳・学級活動授業の継続。 ○「月一回防災の日」の防災朝活動内容を改善し、学校ホームページで公開。 ○新規に防災キャンプを4年生で実施。 ○児童防災委員会を設置。「校内安全マップづくり」「防災カードづくり」 ○「命を守る学習」 ・心肺蘇生法講習 ・砂防講座 ・着衣泳 ○「災害伝承学習」 ・第二室戸台風・伊勢湾体験談 ○意識調査実施。分析を学校だよりで公表。 ○職員研修の実施 「防災教育講演会」「災害図上訓練研修」参加、「校内職員研修の実施」（東日本大震災で活動した人から学ぶ、初期避難所運営訓練） ○多様な「命を守る訓練」の実施（不審者・交通安全・地震・大雨・緊急引取・親子登下校等、実施時間帯の工夫等） ○上之郷小学校区防災教育推進委員会の実施 ○親子災害図上訓練（実施季節を変更）による My ハザードマップ作成及び配布 ○PTA 臨時環境整備作業（減災活動） ○保小中連携した緊急時児童引取訓練

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

上之郷小学校ホームページに公開しているダウンロード用データ一覧

防 災 教 育	<p>○災害伝承学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「室戸台風・伊勢湾台風体験談」(3年) <p>○防災教育内容の位置づいた単元教材題材一覧表</p> <p>○防災教育の観点を位置づけた授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語」教材名「百年後のふるさとを守る」5年生 ・「社会」教材名「災害から人々を守る」6年生 教材名「長く続いた戦争と人々のくらし」6年生 教材名「自然災害を防ぐ」5年生 ・「理科」教材名「大地のつくりと変化」6年生 ・「保健体育」教材名「けがの防止(けがの手当)」5年生 ・「道徳」資料名「おかあさんのなみだ」1年生 資料名「どンドン橋のできごと」3年生 資料名「はるかのひまわり」4年生 ・「学級活動」題材名「かじやじしんがおきたらどうするの(火事)」1年生 題材名「じしんがおきたらどうするの(教室)」1年生 題材名「じしんがおきたらどうするの(図書館)」2年生 題材名「かみなりがなっているよ どうするの」3年生 題材名「水って 怖いんだね」4年生 題材名「津波の恐ろしさ」5年生 題材名「修学旅行中に災害に出会ったら」6年生 ・「特別活動」「近隣自主防災会との合同防災訓練」全校児童
防 災 管 理	<p>○多様な「命を守る訓練」(実施及び計画年月日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者: 24/6/20 ・地震(火災): 25/4/18 ・地震: 25/2/(予定) ・連れ去り防止: 25/5/2 ・大雨・緊急引取(中学校と連携): 25/6/26 ・着衣泳: 25/7/12 ・親子登下校訓練(通学路点検): 25/6/15 ・親子災害図上訓練: 分団集合場所~学校 24/6/16 自宅~分団集合場所 25/6/15 ・心肺蘇生法講習: 25/5/24 ・初期避難所運営訓練: 児童不在時 24/8/29 児童在学時 25/6/26 <p>○月1回防災の日(「ぼうさい かみのごう」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通取組内容「共通内容(募金、停電想定、FMらら(地域防災放送視聴))」 ・「朝の活動」年間計画 ・「命を守る学習(防災教育授業、命を守る訓練等)」 <p>○学校施設・設備の安全点検</p>
組 織 活 動	<p>○上之郷小学校区防災教育推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進構想図 <p>○「御嵩町防災訓練」活動案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24年度 24/9/2 ・25年度 25/9/1 <p>○自助パック(非常食等)の用意(P T A)</p> <p>○防災ズキンの用意(P T A)</p>

(自由記述: 1/3)



平成 25 年度 上之郷小学校区防災教育推進構想

～ 学校及び家庭、地域、関係機関との連携による防災教育の推進 ～

「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」(とりまとめ)より

(1) 防災教育

～自然災害等の危険に際して「行動につなげる態度」の育成と支援者となる視点から社会に参画する意識を高める防災教育の推進～

- 自らの危険を予測し、回避する能力を高める防災教育の推進
- 支援者(高学年)としての視点から、社会に参画する意識を高める防災教育の推進

(2) 防災管理・組織活動

～被災時における安全を確保するための防災管理・組織活動の充実・徹底～

<願う姿>

- 自分の命は自分で守れる力を付けた子。
- 防災・減災活動の推進に力を合わせ、行動する地域・家庭・学校。
- 防災に対する意識を高め、自分の命は自分で守る行動がとれる家庭・地域。

御嵩町地域防災計画

- 施設の不燃化構造の促進
- 危険物の災害予防
- 避難その他訓練
- 施設の予防対策
- 気象予報警報時の把握、伝達
- 防災教養
- 臨時休業

御嵩町教育の方針と重点

一身につけさせたい4つの力
自立力、共生力、創造力、自己実現力

<学校教育の方針>
郷土御嵩を愛し、人間性豊かな児童生徒の育成

- 学校施設内、放課後、登下校時の子どもの安全を守ります

<配慮事項> 児童生徒の安全確保

テーマ 地震・大雨による土砂災害等の自然災害について知り、自分の命は自分で守れる子を育てる防災教育の推進

学校と

- (「◎」印は、小中連携内容)
- ◎防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導
 - ◎**地域・家庭と連携した防災訓練等の実施**
 - 防災教育・防災管理の意識を高める教職員等の研修(転入職員研修含)
 - 地震・土砂災害に係る対応マニュアルの整備及び図上訓練の実施
 - 災害に対応した施設・設備の安全点検・確保
 - 学校外活動中の被災対応検討
 - 防災教育の拠点としての情報発信及び収集
 - ◎**保育園・中学校・家庭と連携した災害に応じた児童の引渡し訓練**
 - 地域・家庭に開かれた防災教育授業公開**

家庭と

- (PTAと連携した内容)
- ◎**地域・学校と連携した防災訓練等の実施**
 - 保護者対象防災教育講演会への参加
 - 親子登下校による通学路安全確認、安全マップ作り
 - 減災を意識した校地内の環境整備
 - ◎**保育園・小中学校と連携した災害に応じた児童引取り訓練**
 - ◎家庭での**地震・土砂災害への対応**
 - ◎町ハザードマップをもとにした家庭内で避難場所・持ち出し品の検討
 - 帰宅困難対応用非常食の用意**
 - 防災教育授業の参観**

地域と

- (上小校区防災教育推進委のもとに)
- ◎上小校区防災教育推進委の開催(年3回)
 - ◎町の防災担当部局等との連携体制の構築
 - ◎**町防災訓練に自主防災会・消防団・児童・教職員合同で参加**
 - 避難所開設時の町・学校の協力体制作り
 - 近隣自主防災会と小学校との合同防災訓練の実施**
 - 防災教育授業の参観**
 - 防災教育講演会への参加の働きかけ**

上之郷小学校区防災教育推進委員会活動内容

- (委員: 上之郷公民館長、自治会長、PTA会長、**町教育委員会**、町総務課、町消防団第一分団長、上之郷中学校、上之郷保育園、校長、教頭、教務主任、研推長)
- 学校の防災教育推進への評価と助言
 - 学校・家庭・地域・行政の情報共有及び関係機関との接続
 - 学校・家庭・地域の連携のあり方検討及び連携状況評価と改善策検討
 - 上之郷小学校区防災教育推進委員会規約づくり**

(ゴシックは、共通取組内容) 赤: 25年度新規 青: 24年度からの文言変更

(自由記述: 2/3)

防災教育の観点を位置づけた授業例

第5学年 社会科 学習指導案 (平成25年12月実施)

1. 小単元名 「自然災害を防ぐ」

2. 本時のねらい

消防団の活動について調べたり、消防団の人の手紙を読んだりする活動を通して、消防団の人たちが命がけで災害から自分達の地域を守ろうとしていることに気づき、自分達にもできることを考えることができる。(ゲストティーチャー 町消防団第一分団長)

3. 本時の展開 (本時の位置 4/6)

過程	学 習 活 動	指導・援助・留意点
つ か む ふ か め る ま と め る	<p>1. 上之郷地区で起きた災害や、地域で防災に関わる人を想起する。</p> <p>○上之郷ではどんな人が防災に関わる活動をしているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御嵩町役場の人たちや消防署の人達。 ・可茂土木事務所の人たちや建設会社の人たち。 ・消防団の第一分団の人達。 <p>○役場や消防署の人達と消防団の人達のちがいはどこでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場や消防署の人達の仕事は職業だけど、消防団の仕事はボランティアでやっているところがちがうと思う。 ・どんな気持ちで消防団の活動をしているのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>消防団の人達はどんな仕事をどんな思いで行っているのだろう。</p> </div> <p>2. 消防団の活動について調べる。(個人追究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆消防団の仕事 ◆消防団の1年間の活動 ◆消防団の活動の様子(写真) ◆消防団員さんの話 <p>3. 調べて分かったことを話し合う。(全体追究)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団は火事の時だけでなく、災害が起きたときに備えて訓練を行っている。 ・実際に災害が起きると、仕事中でも、現場に行って活動しなければならない。 ・自分達の地域は自分達で守ろうという気持ちで、命がけで活動をしている。 ・どんなに命がけで活動しても、命を守りきれるとは限らないから、地域の人達にも意識をもってほしいと思っている。 <p>4. 消防団第一分団長さんの話を聞く。</p> <p>○役場や消防署の人達と共通点は何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の命を守りたいだけでなく、地域の人に自分の命は自分で守る意識をもってほしいと願って仕事をしているところ。 <p>5. まとめる。</p> <p>消防団の人達は、自分達の地域は自分達で守らなければという気持ちで、いろいろな活動をしていることがわかった。もし、本当に災害が起きたとき、わたしたちのために、命がけで仕事をしてくれている人達の願いが無駄にならないように、自分の命は自分で守れるようにしたい。</p>	<p>・上之郷で起きた災害の様子を表した写真資料を提示し、昨年のような大雨が降ったり、大地震が起きたりしたとき、自分が住む地域もいつどこで災害が起きるか分からない危険な地域であることを確認させる。</p> <p>・「命を守る学習」でお世話になった方の写真を提示し、防災に関わる人達が身近にたくさんいたことを想起させる。</p> <p>・消防団の人達がボランティアで活動していることに気付かせ課題づくりをする。</p> <p>・上之郷地区の消防団の方に取材をし、資料としてまとめ提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><防災教育の観点> 消防団は、自分達の地域の人の命は自分達で守るという使命感をもって様々な活動を行っていることを理解することができる。<心構え・生き方></p> </div> <p>・消防団の思いについての理解を深めるために、全体追究後に第一分団長さんに話をしてもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】 消防団の人達の思いを受け止め、命を守るために自分にできることを考えてノートにまとめることができる。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】</p> </div> <p>・まとめと感想を書かせ、消防団の人達の仕事や気持ちがあつたことだけでなく、自分にできることを考えた児童を紹介し、価値付け、次時へつなげる。</p>

(自由記述: 3/3)